

農地を武器に、必ず二期工事を阻止する！



日刊 勤労千葉

79.9.19 No. 228

千葉市要町二一八(動力車会館)
電話二三五八・九(公衆電話三三三二七二〇七)

森山の話し合い攻撃をばねのけ、以前にもまして組織強化をかちとった反対同盟

森山運輸相の「話し合い二期工事早期着工」なる全くベテンの反対同盟解体の攻撃を完全に粉砕した反対同盟。畑地かんがい用の大風車塔を完成させ、政府の農地取り上げ、農民抹殺攻撃と対決し、自らの生活と農業を守るため農地を武器に闘い続ける反対同盟。一四年間にわたって、政府・公団の文字通りありとあらゆる弾圧と切り崩し攻撃に屈することなく闘い続ける反対同盟。この反対同盟の意気軒昂たる生活と闘いは、日々、騒音にやむ周辺住民を除々に闘いに立ち上らせている。のみならず、反公害、反原発、火災、反自衛隊などなどの全国の住民闘争の結集の軸であり、勝利の星として大きな激励となっている。9・16三里塚現地集会は、全国から約二万人の結集をもって圧倒的にかちとられた。反対同盟は9・16集会をもって二期工事阻止・空港廃港にむけ、10・21三里塚・反戦闘争を頂点とする新たな戦闘宣言を発した。われわれは、この反対同盟のよびかけに答え、この間の労農連帯、三里塚・ジェット闘争貫徹の立場を一層強固にしつつ二期工事粉砕、ジェット燃料増送阻止の闘いに決起しよう。

何がいまさら「話し合い」か!!

島村 良助さん(六八才)(反対同盟東峰部落)
私は、二期工事二五〇〇メートル滑走路のド真中に住んでいる島村です。
一三年前に私も、この空港は軍事空港であり、農民虐殺の空港であるとして反対してきました。その反対の理由を運輸省や県庁に行って訴えようとしたとき、彼らは、何をやったのか。私どもを門前払いにし、そして、私どもと本当に話し合いの出来る機会をつくらなかった。そして一三年間。国家暴力をつかってさんざんわれわれをうちのめし、たきめのめし四〇〇メートルの滑走路をつくった。
独占資本のために国民の税金をつかい、そして、国家暴力集団をつかって、一三年間のあいだにつくられたのが四〇〇メートル滑走路であります。今年の七月森山運輸相は、私どもに「話し合い」といった。いまさら、私たちに「話し合い」とは何ごとだといいたす。
私どもは、二五〇〇メートル滑走路のド真中にあって、これを阻止する。
われわれがこれを阻止することは、この飛行場を廃港に追い込むということを信じていかなる弾圧にもまけることなく絶対に闘い抜く決意であります。

いかなる闘いにも住民の力をもってすれば勝てるんだという自信をもって今後も闘う決意であります。



島村さんの横顔

敗戦の年復員した島村さんには、以前勤めていた東京の自分の職場も家も全て跡形もなく、焼野原だった。知人を訪ねて成田市に移り、しばらくして復員者対象の国有地払い下げの機会に農民として生きていくことを決意、膨大な借金をしてやっと一町歩の払い下げをうけて再出発した。三八才の時だという。同盟の先頭で闘っている。

「土地」とは名ばかりで半分は竹林、半分は松林―農具はトンビという開墾ダマとカマぐらひ。しぶとい根っここの闘い、「夜の晩にも鉄をふるった」「七年位かかってやっと耕地らしくなった」という。それまでは「農業」というより「土方作業のような毎日だった」という。
六六年には、やっと二〇年間も返し、よしこれからと思ったらその年に空港の話―横ピンタをはられた思いで、怒りでも寝られなかった。
今、六八才の島村さんは、政府への怒りを秘めて「この家で死ぬんだ」と徹底抗戦を決意し、同盟の先頭で闘っている。

二期工区予定地

南う二期工区内の十七戸

- ① 飯田勇
- ② 鈴木一寿
- ③ 岩茂茂吉
- ④ 石橋政次
- ⑤ 市東東市
- ⑥ 小川嘉吉
- ⑦ 小川喜平
- ⑧ 加藤清
- ⑨ 加藤俊宣
- ⑩ 小泉英政
- ⑪ 田中徳次郎
- ⑫ 島村良助
- ⑬ 染谷カツ
- ⑭ 小川直克
- ⑮ 小川源
- ⑯ 小川七郎
- ⑰ 大木よねの墓
- ⑱ 木の根風車